

ノーベル経済学賞受賞を心から祝福したい

## クルーグマンの視座

『ハーバード・ビジネス・レビュー』論考集

<訳者>北村行伸

クルーグマン教授はプリンストン大学で教鞭をとる一方、多くの人に関心を持つトピックを適切に選んで自らの考えを発表し続けている。

本書は米国経済を軸に、一部の経済学者・経営学者・政治家が主張していることが、冷静に観察すれば、いかに根拠のないものであるかを論じたものである。

近年のクルーグマン教授は「ニューヨーク・タイムズ」のコラムを拠点にリベラル派の論陣を張り、保守派との戦いを一手に引き受けてきた感がある。クルーグマン教授の議論はバランスの取れた理論と現実のデータに裏づけられたものである。本書に納められた論文は、そのようなクルーグマン教授の見事な論理展開を知る絶好の素材である。

折しも民主党のオバマ氏が大統領に選ばれ、リベラル派が勢いづいている。それを予言するかのようなタイムリーなクルーグマン教授のノーベル経済学賞受賞を心から祝福したい。